

博士課程教育リーディングプログラム 平成 23 年度 プログラム実施状況報告書

採 択 年 度	平成 23 年度		
プログラム名	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム	申請大学長名	濱田 純一
申請大学名	東京大学	プログラム責任者名	宮園 浩平
申 請 類 型	複合領域型（生命健康）	プログラムコーディネーター名	岩坪 威

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

【目的】

- 少子高齢化が世界的に進行する中で、基礎生命科学と多様な周辺領域の上に立つ予防・診断・治療などの先端医療開発システムの構築はライフイノベーションの究極のゴールの一つであり、人類社会の重要な課題である。先端医療開発システムは複雑系であり、その先進性を担保するのは生命科学および多様な周辺領域における世界最高水準の研究である。従って、リーダーには多分野の知識と人をまとめ上げるための複合的能力「リーダー力」（自らの専門の確固たる軸足、俯瞰的視野、コミュニケーション能力、見識）が要求されるが、このような能力を養成することのできる学位プログラムは存在しない。
- 本プログラムでは、基礎生命科学と多様な周辺領域の上に立つグローバルな先端医療開発システムを構築するために必須の科学・技術を扱っている医・工・薬・理学系の専攻が緊密に協働して、部局横断型の学位プログラムを立ち上げ、上記の要求特性を満たす国際的リーダー候補人材を育成する。大学院で育成する人材と、実社会で求められる人材との間にミスマッチがあるという不満も産業界や官界から多く聞かれる。このようなミスマッチを解消し、産官からも期待される人材を生み出すことで、キャリアパスの拡大・開拓も含めた部局横断型の大学院教育改革を実践する。

【大学の改革構想】

- 東京大学行動シナリオの大方針である行動ビジョンにおいて、「真の教養を備えたタフな東大生」という項目が挙げられている。その内容を要約すると、「国際的な広い視野、強靱な開拓者精神を持ち、公共的な責任について自ら考え行動するタフな人間を、現実のさまざまな事象に向き合い、粘り強く応答し、あるべき解を求める中で、養成する。」「大学院生が存分に能力を高めることのできる環境を整え、高度専門職業人として、将来像が描けるような環境を作る。」「大学院生への研究支援を拡大し、国際的な活躍と交流の場を拡大する。」「豊かな知識を基盤に、能動的学習や国際経験・社会体験を通じて、多様な価値観の存在を意識したコミュニケーション力や、知や社会のフロントを切り拓く行動力を備えたタフな学生を育てる。」

とあり、医・工・薬・理学系の専攻が協働して、部局横断型の学位プログラムを立ち上げ、社会的に重要なライフイノベーションを先導する国際的リーダー候補人材育成を目的とする本プログラムの内容は、行動ビジョンに良く合致している。

2. プログラムの進捗状況

交付決定後ただちにプログラムの本格的運用にむけた準備を行った。

- 分野俯瞰講義、リーダー論、輪講の実施詳細を定めた。
- 学内インターンシップ実施のために、共通実験設備を整備し、実習用実験機器と消耗品の購入を行い、機器の試運転を行った。
- 学外インターンシップの準備のために海外関連機関にて打ち合わせを行った。
- 教育タスクを補佐する特任教員を雇用して、役割分担を定め配置した。
- 経理・教務・広報を行う事務支援職員を雇用して、事務局を開設した。また、各系での事務を補佐する職員を雇用した。
- プログラム担当者が一同に会する全体会議を開催した。
- 学生の本格的募集開始（新たな学位を授与するプログラムに選抜された優秀な学生）にあたりウェブサイトを作成し、選抜を実施した。